

ICI News Letter

2006年度

発行日 2月15日

参考文献リスト

『カリスマ運動を考える』
R. H. カルベッパ著

KBIの新しい土地における挑戦

関西聖書学院の新天地における最初の教師会がもたれました。それは、モーゼに率いられエジプトを脱出し、荒野の40年を経たイスラエルの民が、ヨシュアに率いられて約束の地に入る姿に似ています。荒野におけるイスラエルの民と約束の地におけるイスラエルの民の召しは異なっていました。荒野は忍耐の年月でありましたが、約束の地では戦いが待ち受けていました。

そのように、スンペリ師と高橋師に率いられた西宮のKBIと大田師とそれを支える教師や理事の生駒のKBIにおける召しの内容もまた異なる部分があるのではないのでしょうか。これまでの継続でものを考えてもよい部分と新しい召しと賜物が何であるのかを模索していく部分があるのではないのでしょうか。

多くの大学や専門学校でも、そうだと思いますが、理事会は土地や建物や経営のことを考え、教師会は神学生や神学教育の内容のレベル・



KBI生駒校舎にて

アップに日夜取り組んでいると思います。KBIのスタートは短期のバイブル・コース形式でありました。そしてそれが必要にせまられるかたちで三年コースにまで発展させられてきました。KBIの特徴は、宣教現場である教会との密着した神学教育に特徴があると思います。その教師陣のほとんどが宣教現場の最前線で伝道・牧会や海外宣教にあずかっている方々です。信徒教育を対象にした実践で試され

KBIを卒業された先生方は、宣教現場と教会形成の実践に強い方が多いと思います。それらは、KBI神学教育の賜物です。それらの良き物を継承・深化・発展させつつ、新しい時代の挑戦にも敏感であることが必要です。その挑戦の具体的な内容はまだおぼろげにしか見えていません。2006年2月14日の新しい土地における教師会は、まさしく新しい土地に築かれた祭壇でもあったと思います。その話し合いの中で、幾つかの課題が私にも与えられました。私の「発言の内容や意図をもっと明確に文章のかたちで教師会に提示してください。」と。この与えられた課題に「ICI News Letter」というかたちで応えさせていただきたいと思います。

戦後に形成されてきた教会は二世、三世の時代に

た、分かりやすい教育内容は奉仕の生涯の最初の三年間に適切なものをもっていきます。それらの良き部分を継承しながら、今新しいチャレンジも与えられているように思います。戦後形成された諸教会・諸教団は二世・三世の時代に入ってきています。戦後のドタバタの時代ではなく、この新しい世代には多くの課題とともに、多くの可能性が秘められています。

R.H.カルベッパ著『カリスマ運動を考える』ヨルダン社の中には、「ペンテコステ主義の若い世代は彼らの両親の限界を破って階段をのぼっていきます。…今までと同じ知的レベルにとどまっているとすれば若い世代の多くを失うことになるでしょう。」とあります。KBIも新しい世代のニーズを察知し、あらゆる機会をとらえて神学教育の内容とレベルを高めていくことが大切なのではないでしょうか。